

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



1. プロジェクトチームの発足

西武鉄道では、2005年より、古くなった車両に替わる新しい車両の製作の検討を始めました。新車については、従来は車両を専門に扱う社員が中心となってデザインや内装を決めていました。しかし、今回の新車には「新しい西武のシンボル」という重要な任務があります。そこで、社員のいろいろな発想が採り入れられるようにさまざまな部署からの社員を集めてプロジェクトチーム（PJ）を設置して検討にあたることとしました。



PJは2005年12月に男性社員20名で発足しました。PJのメンバー達は、幅広い意見を聞こうと各部署から新車に対する要望を集めました。特に女性からの

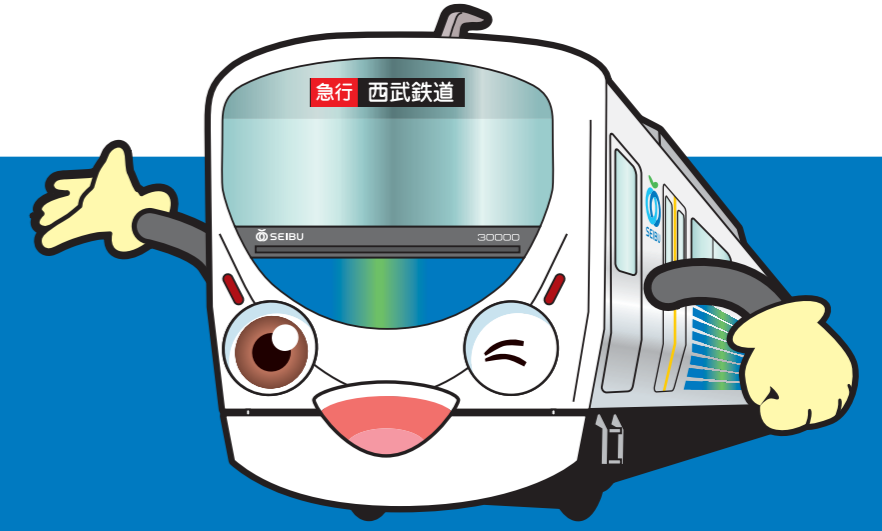


意見は男性と違った視点のものばかりで、はっとさせられることもありました。けれども、まとめるPJメンバーは、今でこそさまざまな部署に散っていますが、入社時は現場の第一線で基礎をたたき込まれた鉄道のプロ。どうしても集約した資料は「はっとするような」ものにはなりません。

PJの男性メンバーはそれぞれの部署の代表として参加していたので、どうしても自分の部署の視線で考えてしまっていましたね。バリアフリーとか安全とか、その程度のキーワードは出てくるのですが、もう一步踏み込んだお客様の視点というのはなかなか出てこなかったですね。

(PJメンバー♂談)

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



2. 女性メンバー加わる

PJがまとめた新車のコンセプトを会議で報告したところ、社長からの提案が出されます。「女性をPJメンバーに入れたらどうだ？」一般には当たり前のことかもしれませんが、西武鉄道では初めてのこと。戸惑いながらも集められた11名の女性メンバーを加えて、2006年2月にPJは再出発しました。



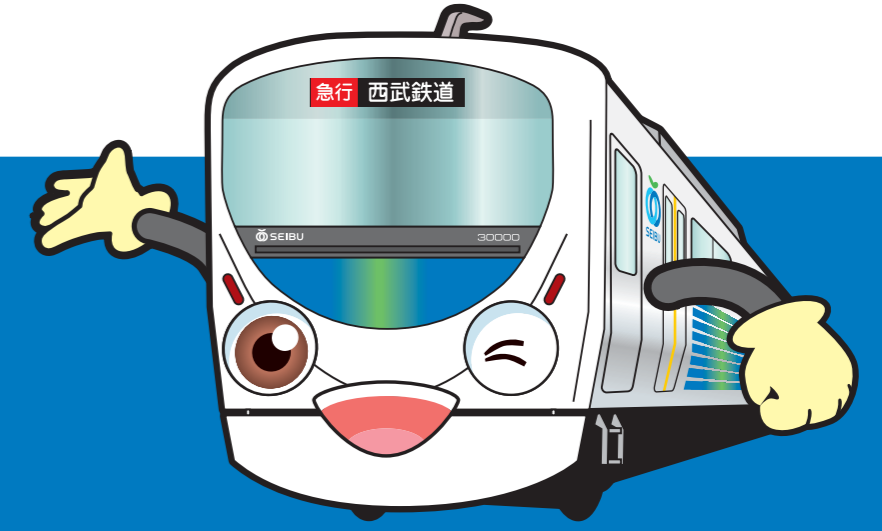
いつもは本社で事務処理ばかりの女性社員、鉄道会社においても車両のことなんてちんぷんかんぷん。そこで、まずは車両についてのお勉強からスタートです。机の上でのお勉強だけでは飽きたらず、実際に他社の車両を乗り較べていいところを体感してみたい、そんな要望も出て他社車両見学ツアーまで開催しました。

PJメンバーに参加したものの、会議中は男性社員間で自然に専門用語が飛び交うなか私たち女性社員の頭の中は「?マーク」だらけ。「?」のまま会議が終了し、会議終了後に男性社員に質問してやっと車内のどの部分の名称なのか理解するといったことがしばしばありました。会議を重ねるうちに、実際に他社の車両を乗り較べて体感してみようという話になり、2~3名のグループでいくつかの班に分かれ試乗してきました。座席の座り心地や吊り手の高さ、車内の明るさ等今まで気にも留めていなかったことを様々な立場の目線で観察し意見集約をしました。(今では、他社線に乗ると自然といろいろ気になっている自分がいます...)

その結果、車内設備やデザインなど様々な面において、当社では今までになかった「女性の視点」からという提案をすることができました。

(PJメンバー♀談)

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



3. メーカー決定

こうして、清潔感とかやさしさといった女性の目を見たキーワードが加わり、新車のコンセプトが決まりました。次の仕事はメーカー選定です。コンセプトを基に車両メーカーがプレゼンを行います。役員や、車両・運転などが専門の社員と共に、PJメンバーの厳しい目が光ります。



車両の出来上がりがここで大きく決まってしまうメーカー選定。

今までみんなで話し合っ作りこんだコンセプトがどう形になっているのかとワクワクしながらも、厳しい目をもってプレゼン審査に挑みました。

安心・安全の車両構造の技術をアピールするメーカーさんや、最新のユニバーサルデザインを提案するメーカーさんなど様々で、選定には非常に頭を悩ませられました。

また一方で、今回のPJは外観デザインについて別途プレゼンを行う程のこだわり様。

各メーカーさんともに各分野のプロの集大成である提案内容で、選ぶには非常に苦労しました。

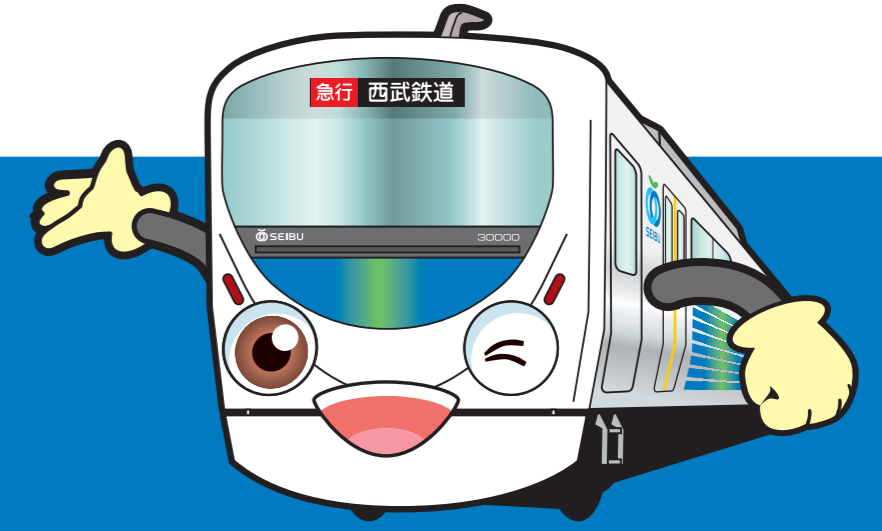
その中でも日立さんは、両プレゼンの中でも女性の意見、新生西武を一番に形にできるのではないかという期待を持たせてくれるメーカーさんでした。電車としてのクオリティの高さで言えばどのメーカーさんも引けをとらない提案内容ですが、30000系はPJで作っていくもの。既成でない新生の新造車両をつくるのが大切です。

目標実現のために、30000系PJのパートナーとして私たちは日立さんを選ばせて頂きました。

そして、いよいよ最も重要である車両の作り込み作業が始まったのです。

(PJメンバー♀談)

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



4. デザイン・カラーリングの選定

プレゼンの結果を踏まえてメーカーも決まり、いよいよデザインの検討が始まりました。メーカーや設計会社のデザイナー達が腕を振るってデザインを持ち寄りますが、PJメンバーの口から出てくるのは辛口のコメントばかり。提案してはダメ出し、そんな会議が続く中、



“Smile Train” というデザインコンセプトがデザイナーとPJの気持ちの架け橋となり、ようやくみんなの納得する新車の顔が決まりました。



デザインが決まればカラーリング、ここでも妥協のない議論が交わされた結果、コーポレートカラーとグラデーションを採り入れたカラーリングにOKが出ました。

なかなか思うようなデザインが決まりませんでした。期日は決まっているのに、結論が見えない。苦労しました。

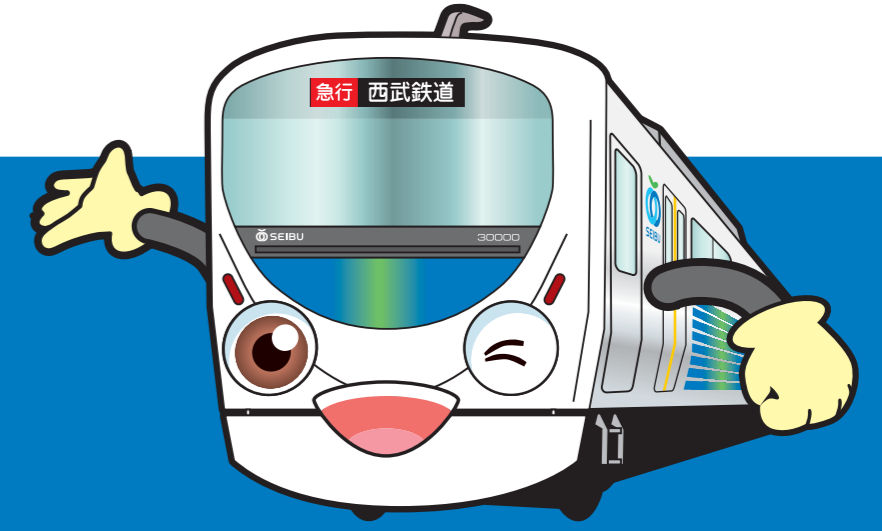
この頃になると、女性メンバーの口から専門用語が出てくるようになりました。

他社にはない電車をつくりたいと思いました。

カラーリングについての会議は、個性がでました。

(PJメンバー♀談)

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



デザインの検討…。それは、本当に大変な作業でした。

『新生西武の象徴』として位置づけられた今回のこの車両のデザイン選定は、まさに、新生西武の『顔』を決めるとても重要なものでした。デザインは、どうしても個人的な『好み』が入ってきます。PJのメンバーの中には、男性もいれば女性もいる。そして、かっこいいデザインが好きな人もいれば、かわいらしいデザインが好きな人もいます。限られた時間の中で、それらを一つにまとめるのは、とても困難でした。

メンバー達の心の中に浮かんでくるのは、デザイン決定後に受ける周りからの批判…。「何でこんなデザインなの?」「え〜っ!かっこわる〜い!!」「誰が決めたんだよ。これ。」などなど…。刻々と時間が過ぎる中、焦りとネガティブな気持ちばかりが頭の中を駆け巡ります。

しかし、そんな気持ちを吹き飛ばしてくれたのは、今までの西武の車両にはない『斬新なデザイン』を取り入れたいという熱い気持ちと、我々が決めた『Smile Train』というデザインコンセプトでした。

メーカーが提案するデザインの中で、最もデザイナーの熱い気持ちが伝わり、そして、最もコンセプトと合致したデザインが、我々の心を一つにしてくれました。

その結果…。

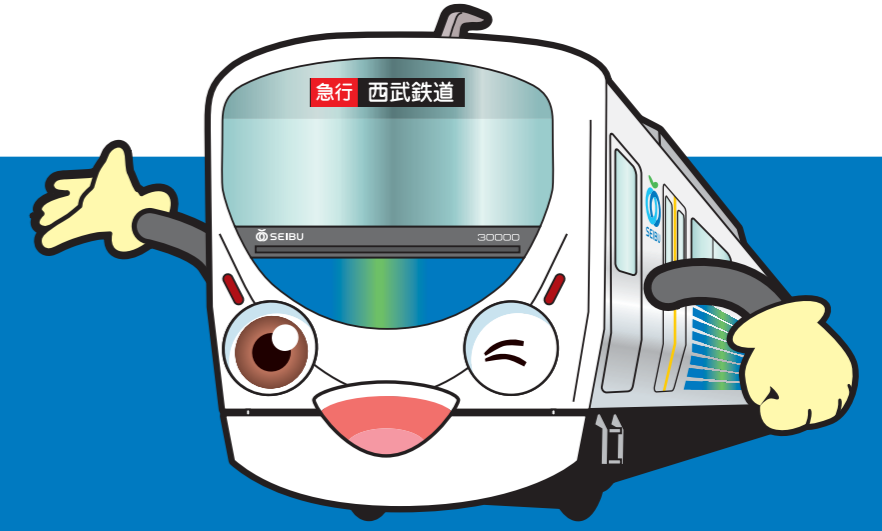
今までの西武の車両にはない斬新なデザインで、かつ、我々のコンセプトに沿った、なんだか見ているだけで、ついほほえんでしまう。そんな新生西武の『顔』が誕生しました!

今では、プロジェクトメンバー全員が自信を持って言えます。「この車両のデザインを決めたのは我々です!」と。

(PJメンバー♂談)



30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



5. インテリアの検討

見た目も大切ですが、実際にお客様がご利用になるのは車内。PJメンバーはインテリアにも手を抜きません。荷棚の高さ、吊り手の形、ひとつひとつにこだわるために、メーカーの研究所にまで足を運んで、実際に触ってみました。



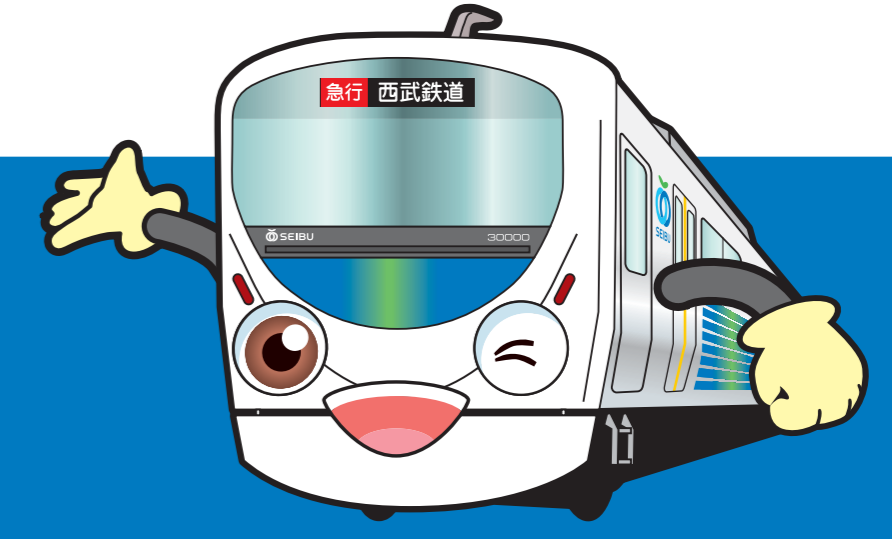
インテリアデザインの検討は、「Smile Train」のコンセプトを基に、お客さまにいかにやさしく快適に過ごせる空間を提供できるか、というところからスタートしました。ドーム型の天井や幅広の車体など、従来と比べて格段に広くなった開放感のある空間を活かして、明るく清潔感が演出できるように、デザインイメージの比較・検討を行いました。また、エクステリアのイメージである丸みをもったデザインを、当社オリジナルとなるたまご型の吊り手をはじめとして、袖仕切りや手すりなど随所に採用して、やさしさと機能性を追求しています。

デザインイメージの決定後は、メーカーの研究所に出向いて、実際のパーツを見ながら、細かい内容を決定していきます。座席については、20000系の椅子を用意してもらい、比較しながら決めていきます。堅さは、個人差もあることから、PJメンバー全体でよく議論して、長時間座っても疲れることがないようなものを採用しました。手すりや握り棒などについても、実際に触ってみて、機能性を一つ一つ確認して決定して行きました。また、車内の化粧板も、無地、細かい目地が入っているもの、それぞれ印象がかなり異なることから、座席の生地と組み合わせたり、蛍光灯の下にあわせてみたり、と慎重に検討しました。

インテリアデザインは、PJメンバーがお客さまの視点にこだわって作り上げた集大成です。内容をご覧いただき、様々なご意見をいただければ、幸いに存じます。

(PJメンバー♂談)

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



6. 出来栄えのチェック

座席にもこだわりました。生地
の感触、デザイン、座り心地について、
自分たちが選んだ通りに仕上がっ
ているか、工場まで行って確かめて
きました。

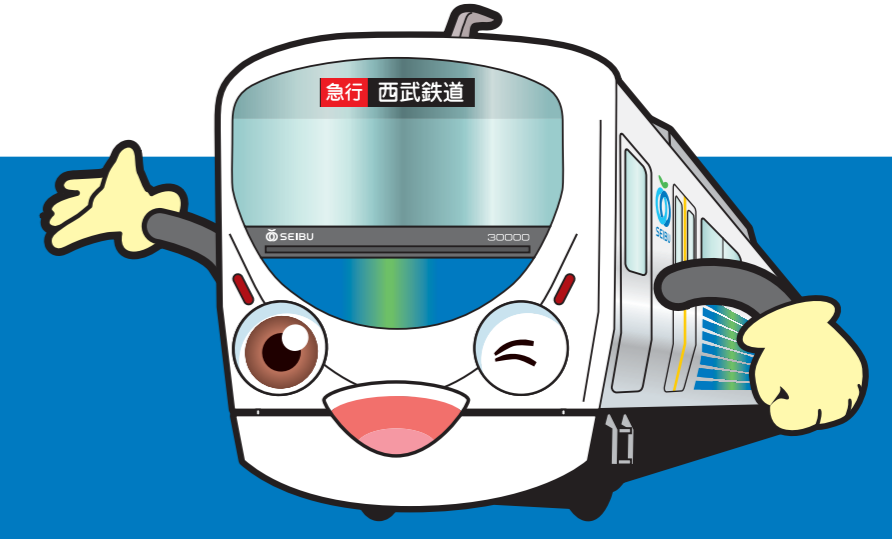


安全を保つ上で、乗務員が
確実な作業を行うことも大事
なポイントです。最近では女性
の乗務員もおりますので、小柄
な女性でも安全な運転ができ
るよう、実際に運転台に座って
みてスイッチ動作や視界など
を確認しました。

今回、山口県の工場に確認検査として同行しました。実物を見た瞬間、まさしくスマイルトレイン！
イメージ通りの仕上がりにはびっくり。今まではパーツごとの検討を続けてきましたが、車内を見
渡すと今までの車両と比べて圧迫感がないこと、座席の座り心地も硬くもなく違和感がまったく
なく、時間をかけて検討した結果が出ました。運転台も要望通りに反映されており、運転席回り
は今までのスイッチ類がずらりと並んだ運転席よりは見た目すっきりまとめられていました。女性
乗務員も扱いやすいのかPJの女性メンバーにスイッチ類を実際に触ってもらい、扱いやすさを
確認しました。

(PJメンバー♂談)

30000系 スマイルトレイン 誕生までの軌跡



7. いよいよ完成



最終的には20回に及んだ会議と
実地調査も含めたPJの検討結果を
メーカーに伝えました。その結果が
どう反映されているか、2008年
1月28日、待ちに待った30000系
とPJメンバーとの対面です。

前面を覆っていたシートが取り外された瞬間、私の目に飛び込んだ姿はCGなどで見慣れた姿
でした。事前PR用のペーパークラフトを一生懸命作ったのですが、その本物だ!っていうのが
最初の感想です。デザイン画と実物って感じが違うことが結構ありますが、この30000系は私
たちPJのメンバーがイメージしていた通りの出来栄でした。

インテリアも私たちの意図した通りに出来ていて、吊り手や座席に触れているうちにそれぞれの
パーツについて議論した日々が思い出されて、思わずうるうる…、なんてことはいけませんね。
スマイルトレインですから、笑顔でなくっちゃ!

(PJメンバー♂談)

いかがでしたでしょうか。以上が私たちプロジェクトチームの発足から30000系
完成までのエピソードです。コンセプトの立案から最終検査まで、お客さまに親し
んでいただけるように、メンバー
全員で知恵を出し合いながら
作り上げてまいりました。ぜひ、
私たちの自信作“Smile Train”
をごゆっくりご堪能ください。

